

～ 血液一般 ～

白血球数(W)

病原体などの体外からの侵入物を撃退する働きがあります。
白血球が増加すると、細菌やウイルスが入り込んで炎症が起きていることを示しています。

考えられる疾患・受診科

高値:虫垂炎、肺炎、白血病、腎盂腎炎など
低値:膠原病、悪性貧血、再生不良性貧血、放射線やがんの副作用
《血液内科》

赤血球数(R)

赤血球は全身の組織に酸素を運ぶ役割を担っています。
そのため、赤血球が減少すると酸素を運ぶ能力が落ち、細胞が酸欠状態になり貧血になります。

考えられる疾患・受診科

高値:多血症
低値:鉄欠乏性貧血、悪性貧血、再生不良性貧血など
《血液内科》

ヘモグロビン(Hb)

ヘモグロビンは血色素ともいい、赤血球の中に含まれるたんぱく質の1つです。
貧血になると顔色が青白くなるのは、ヘモグロビンが減少しているためです。

考えられる疾患・受診科

低値:鉄欠乏性貧血、慢性出血性貧血
《血液内科》

ヘマトクリット(Ht)

血液中に赤血球がどの程度含まれているかの割合をいいます。低値の場合には貧血が疑われます。

考えられる疾患・受診科

高値:多血症、脱水症状
低値:貧血
《血液内科》

血小板数(PLT)

血液を凝固する重要な働きがあります。
そのため、数が減少すると出血しやすくなったり、止まりにくくなったりします。
逆に増加しすぎると血栓を作って血管を詰まらせることになります。

考えられる疾患・受診科

高値:本態性血小板血症、慢性骨髄性白血病
低値:鉄欠乏性貧血、慢性出血性貧血
《血液内科》

MCV(平均赤血球容積)・MCH(平均赤血球色素量)・MCHC(平均赤血球色素濃度)

MCV:赤血球の1個あたりの大きさの平均です。
MCH:赤血球に含まれる色素量(Hb量)の平均です。
MCHC:赤血球に含まれる色素量濃度(Hb濃度)の割合です。

考えられる疾患・受診科

MCV高値・MCHC正常:溶血性貧血など
MCV低値・MCHC低値:鉄欠乏性貧血など
《血液内科》

全比重

「比重が小さくなる＝赤血球が減少している」ことを示します。
したがって、貧血の簡易的な指標として使われる場合もあります。

考えられる疾患・受診科

高値:赤血球増加症、脱水症状
低値:貧血
《血液内科》

血液像

白血球は好中球(分葉核球、桿状核球)、好酸球、好塩基球、単球、リンパ球、異型リンパ球に分類されます。それぞれの白血球がどのくらいの割合で血液中に存在するかを調べる検査で、病気の診断に役立っています。

考えられる疾患・受診科

好中球の増加:肺炎などの急性感染炎
好中球の減少:はしかなどのウイルス疾患、再生不良性貧血
好酸球の増加:気管支喘息などのアレルギー疾患
好塩基球の増加:慢性骨髄性白血病、多血症
単球の増加:感染症、膠原病
リンパ球の増加:結核などの慢性感染症
リンパ球の減少:全身性エリテマトーデス、悪性リンパ腫
《血液内科》